

# 初任校研修（2年目）研究授業

## 政治・経済下① 学習指導案

日 時 平成 28 年 1 月 20 日（水） 第 3 校時

実施教室 地理歴史公民室（管理棟 2 階）

授業者 小山 匠

授業研究 同日 15 : 15 ~（地理歴史公民室）

## 政治経済下① 学習指導案

日 時 平成 28 年 1 月 20 日 (水)  
 第 3 校時 (90 分)  
 実施教室 地理歴史公民室 (管理棟 2 階)  
 対 象 普通科選択者 24 人  
 (入 : 1 人, 中 : 16 人, 卒 : 7 人)  
 教科書 『高等学校政治・経済』(第一学習社)  
 副教材 『最新政治・経済資料集 新版』  
 (第一学習社)  
 授業者 小山 匠

### 1 単元名 「日本経済の歩み」

### 2 単元の目標

日本経済の歩みとその特徴を考察することを通して、日本経済の抱える問題点を理解するとともに、経済社会の中に生きる日本人の生き方在り方について考えを深めさせる。

### 3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
日本経済の歩みに対する関心を高め、戦後日本経済の特質などを意欲的に追究し、経済活動の効率性と福祉の向上などについて客観的に考察しようとしている。	日本経済の歩みから課題を見出し、戦後日本経済の特質などを多面的・多角的に考察し、経済活動の効率性と福祉の向上について社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	日本経済の歩みに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。	東京オリンピックを軸にとって、戦後日本経済が概ね 4 つの時期を経ていること、様々な要因によってそれぞれの時期の特質が現れていること、そしてバブル経済崩壊前後から日本経済のあり方や産業構造、雇用のあり方が変化していることについて理解し、その知識を身につけている。

### 4 単元の指導計画

#### 第 2 編 現代の経済

#### 第 1 章 現代経済のしくみと特質

- |                |            |              |
|----------------|------------|--------------|
| ① 経済社会の発展      | (90 分×1 回) | } 授業の構成上順序変更 |
| ② 経済主体と経済活動    | (90 分×1 回) |              |
| ③ 市場経済の機能と限界   | (90 分×1 回) |              |
| ④ 経済成長と景気変動    | (50 分)     |              |
| ⑦ 物価の動き        | (40 分)     |              |
| ⑥ 金融のしくみとはたらき  | (90 分×1 回) |              |
| ⑤ 財政のしくみとはたらき  | (90 分×1 回) |              |
| ⑧ 日本経済の歩み      | (90 分×1 回) |              |
| ⑨ 中小企業・農業の課題   | (90 分×1 回) |              |
| ⑩ 消費者問題・高度情報社会 | (90 分×1 回) |              |
| ⑪ 労働問題         | (90 分×1 回) |              |
| ⑫ 社会保障制度の歩み    | (90 分×1 回) |              |
- ・・・ 本時

## 5 生徒の実態

受講者の大多数は中間年次である。全体としておとなしく、まじめな生徒が多く、発問や質問に対して一生懸命考えて発表することができる。一方で、社会に対する興味や関心は相対的に低く、授業内容の理解度にもかなりの差がある。そのため、さまざまな視聴覚教材を利活用したり、生徒の身近な問題を提示したり、授業を工夫する必要がある。また、個別に理解の進捗度を確認しながら授業を行う必要があるため、講義型授業、グループワーク、確認プリントによる内容確認等を組み合わせ、机間指導など個別に対応する必要がある状況である。

## 6 本時の実際

### (1) 主題名

第1章 現代経済のしくみと特質

#### ⑧ 日本経済の歩み

### (2) 本時の目標

ア 日本の経済や人々の生き方在り方について関心を高める。

イ 日本経済や人々の生活における変化について考察を深め、より良い経済社会及び自分自身の生き方在り方について公正に判断・表現する。

ウ さまざまな資料や図表から、多面的・多角的に読み取る。

エ 日本経済の歩みにおける特徴と課題について理解する。

(3) 本時の展開

過程	学習内容・学習活動（生徒）	指導上の留意点	興味 関心 態度	思考 判断 表現	資料 活用 技能	知識 ・ 理解
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習内容について関心を高める。</li> <li>●本時のポイントを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶本時の動機付けを行う。</li> <li>▶プロジェクターで提示する。</li> </ul>	○			○
展開 1 25分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     第二次大戦前後の日本の状況を考察し、戦後復興期の特徴を理解する。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>●20世紀前半の日本の状況を考察する。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>① 日本（東京）の成長を考察する。</li> <li>② 大空襲から敗戦に至る東京の状況と人々の生き方在り方を考察する。</li> </ul> </li> <li>●経済復興政策期の特徴を理解する。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>① 戦後復興がGHQ主導であったことを理解する。</li> <li>② 経済の民主化が経済発展の基盤となったことについて考察する。</li> <li>③ 経済復興政策と朝鮮戦争の影響について考察する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶プロジェクターで提示。</li> <li>▶映像活用。</li> <li>▶復興へ向かう息吹を考えさせる。</li> <li>▶映像活用。</li> <li>▶『斜陽』（太宰治著）活用。</li> <li>▶弊害についても考えさせる。</li> <li>▶画像・映像を活用。</li> <li>▶朝鮮戦争がもたらした特需について理解を深めさせる。</li> </ul>	○	○	○	○
展開 2 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     東京オリンピックの背景を考察する。高度経済成長期の特徴を理解する。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>●高度経済成長の「光」を考察する。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>① 東京オリンピックを可能にした背景について考察する。</li> <li>② 高度経済成長の要因を理解する。</li> <li>③ 内需から外需主導の経済構造に変化したことを理解する。</li> </ul> </li> <li>●高度経済成長の「影」考察する。</li> <li>●人々の生き方在り方を考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶1964年に至る日本経済とその後、そして人々の様子を考察させる。</li> <li>▶グループワークにより考察させる。</li> <li>▶政府・企業・家計が果たした役割を考えさせる。</li> <li>▶資料「日本における耐久消費財の普及率」活用。</li> <li>▶映画「平成狸合戦ぽんぽこ」を活用。</li> <li>▶「豊かさ」と人々の生き方在り方との関係について考えさせる。</li> </ul>	○	○	○	○

過程	学習内容・学習活動（生徒）	指導上の留意点	興味 関心 態度	思考 判断 表現	資料 活用 技能	知識 理解
展開 3 20 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">           安定成長期の特徴を理解する。 バブル経済とその後の影響を考察する。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安定成長期の特徴を理解する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 石油危機の影響を考察する。</li> <li>② 貿易摩擦が起こるほど、輸出産業が伸長した要因を考察する。</li> </ul> </li> <li>●バブル経済の特徴を理解する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① プラザ合意によって日本経済の在り方が変化したこと、それがバブル経済につながることを理解する。</li> <li>② バブル崩壊以降の日本経済の問題点について考察する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶エネルギー政策の転換，産業構造の転換等の必要性に気付かせる。</li> <li>▶日米貿易摩擦の映像を活用。</li> <li>▶資料「産業構造の高度化」を活用。</li> <li>▶日本経済と世界経済の関係について考察させ，資本主義経済の在り方が変化したことを理解させる。</li> <li>▶1990年代から長引いたデフレスパイラルの要因と影響を理解させる。</li> </ul>		○	○	○
終末	●日本経済の歩みを復習する中で，現在の日本経済の在り方を考える。	▶映像活用。 ▶本時の学習内容を整理する。	○	○		○
5 分	●日本人の生き方	▶又吉直樹著『火花』活用。	○	○		

(4) 本時の評価

ア 日本の経済や人々の生き方在り方について関心を高めることができたか。

【関心・意欲・態度】

イ 日本の経済や人々の生活における変化について考察を深め，より良い経済社会及び自分自身の生き方在り方について公正に判断・表現することができたか。

【思考・判断・表現】

ウ さまざまな資料や図表から，多面的・多角的に読み取ることができたか。

【資料活用の技能】

エ 日本の経済のあゆみにおける特徴と課題について理解することができたか。

【知識・理解】

戦後復興期

1945年～1954年

(1. .... )  
による占領統治

経済民主化政策

- (2. .... ) → 企業間の競争
- (3. .... ) → 自作農育成
- (4. .... ) → 労働運動の公認

経済復興政策 I

- ①アメリカによる資金援助  
ガリオア基金 (5. .... )  
工口ア基金 (6. .... )
- ②傾斜生産方式の採用  
(7. .... , .... , .... ) 等  
に生産力を集中させた。生産に必要な  
資金準備のため、復興金融金庫を設立。
- ③ (8. .... ) の発生

経済復興政策 II

経済安定化9原則

ドッジ・ライン

1ドル = (9. .... 円) 固定。

シャウプ勧告

(10. .... ) 中心の税制改革。

1950年  
朝鮮戦争

(11. .... ) の発生  
アメリカからの物資援助要求  
→ 日本企業の生産の活発化

1951年日本主権回復 (サンフランシスコ平和条約)

高度経済成長期

1955年～1973年

(12. .... ) 主導

- ①54年～ 神武景気
- ②58年～ 岩戸景気
- ③62年～ オリンピック景気

※成長の「影」

(13. .... ) 主導

④65年～ いざなぎ景気



1973年  
石油危機

石油関連製品の  
価格が4倍に!

(14. .... ) で大混乱

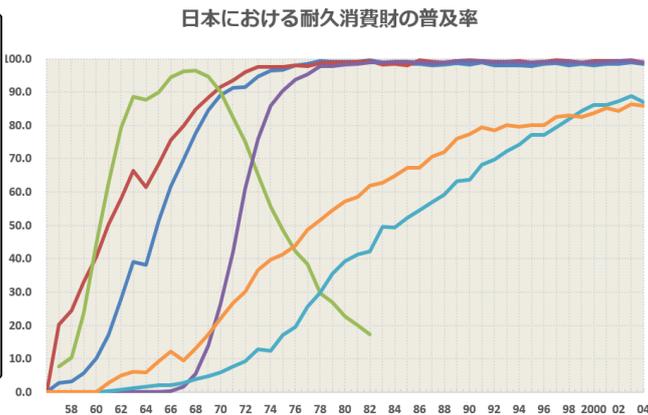
(15. .... ) の発生

: 不況下で物価上昇が起こる現象のこと。

\* 1964年東京オリンピック前後の日本の経済について考えよう。

一人暮らしの必需品

1. \_\_\_\_\_
2. \_\_\_\_\_
3. \_\_\_\_\_
4. \_\_\_\_\_
5. \_\_\_\_\_
6. \_\_\_\_\_



「 \_\_\_\_\_ 」

- ① \_\_\_\_\_
- ② \_\_\_\_\_
- ③ \_\_\_\_\_

「 \_\_\_\_\_ 」

- ④ \_\_\_\_\_
- ⑤ \_\_\_\_\_
- ⑥ \_\_\_\_\_

**Q 1. 東京オリンピック前**，家庭で必要とされたものは？

最も早く売れた商品は，（ \_\_\_\_\_ ）である。

主な理由は，主婦にとって，（ \_\_\_\_\_ ）である。

その結果，主婦に（ \_\_\_\_\_ ）ができた。

そのため，次に売れた商品は（ \_\_\_\_\_ ）である。

主な理由は，1958年には東京の象徴である（ \_\_\_\_\_ ）が完成，1959年に皇太子御成婚パレードが行われたことである。（現在の天皇陛下）

続いて売れたのが，（ \_\_\_\_\_ ）である。

主な理由は，食生活の変化による保存の必要からである。

こうして，1964年までに多くの家庭が便利な生活を手に入れた。

**Q 2. 東京オリンピック後**の生活は？

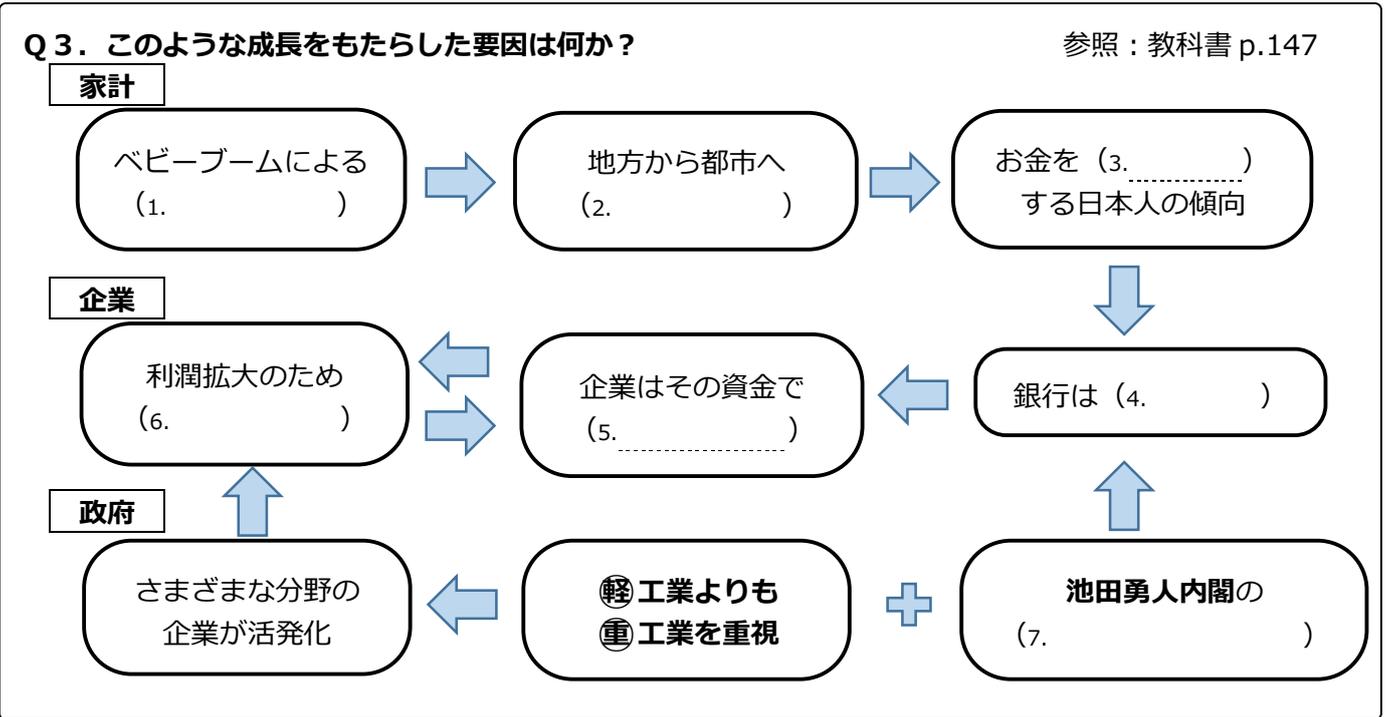
所得が上昇し，より豊かさを求めた。

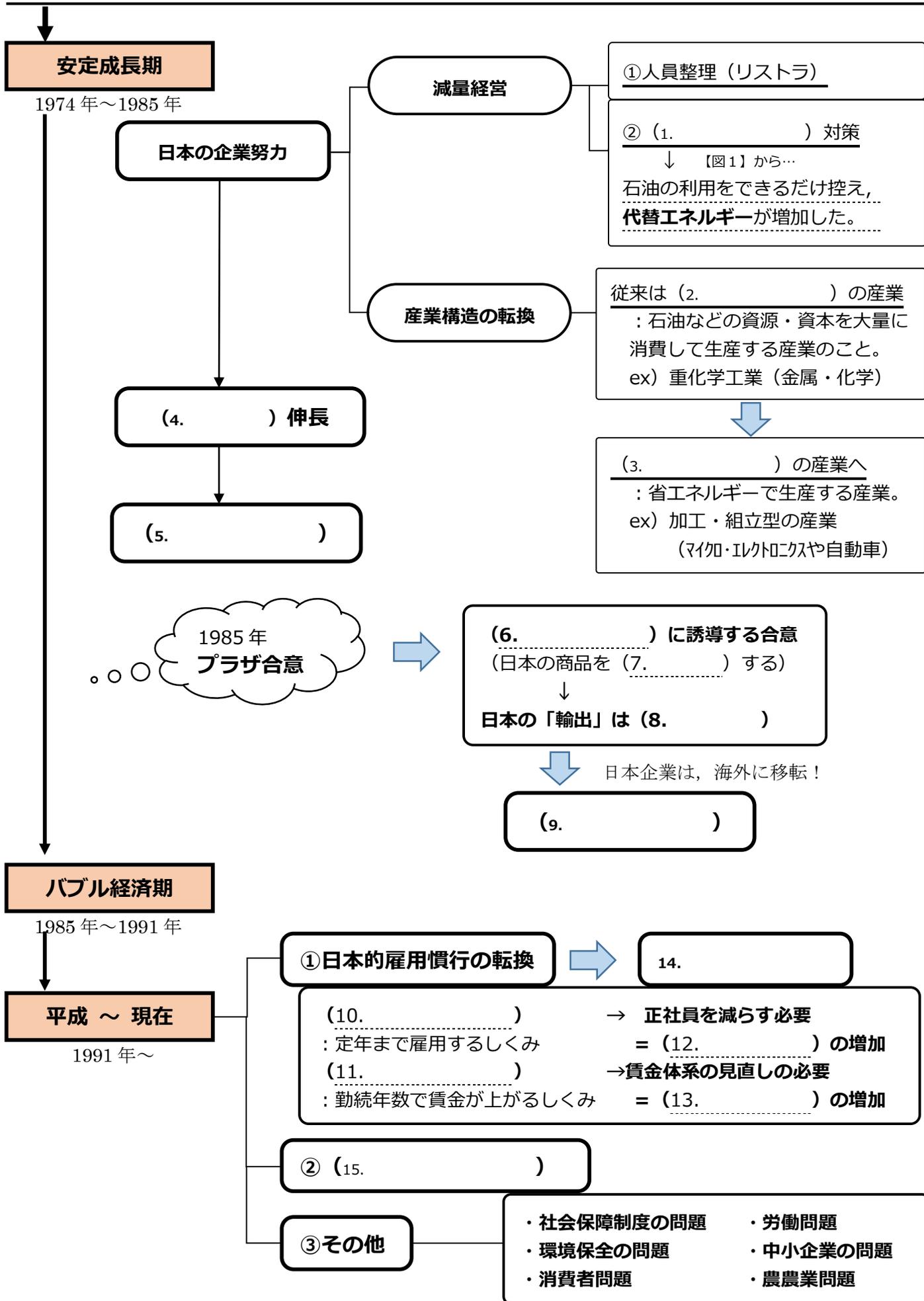
そのため，家庭でのより快適な生活を求めて，（ \_\_\_\_\_ ）を購入したり，より良い情報を求めて，90%の家庭が（ \_\_\_\_\_ ）を購入した。

また，オリンピックにより交通網も整備されたことで，外での余暇を楽しむため，（ \_\_\_\_\_ ）を購入した。

国民の多くは貧富の格差意識が低下し（ \_\_\_\_\_ ）をもつようになる。

68年に世界第2位の経済大国となる。





\*日本の経済について、図表から読み取ってみよう。

▼【図1】日本の一次エネルギー供給構造の推移

年度	一次エネルギー総供給 (10 <sup>13</sup> kcal)	構成比(%)					
		石油	石炭	天然ガス	原子力	水力・地熱	新エネルギー等
1960	101	37.6	41.2	0.9	0.0	15.7	4.6
1970	320	71.9	19.9	1.2	0.3	5.6	1.0
1975	366	73.4	16.4	2.5	1.5	5.3	0.9
1979	411	71.5	13.8	5.2	3.9	4.6	1.0
1985	405	56.3	19.4	9.4	8.9	4.7	1.3
1990	486	58.3	16.6	10.1	9.4	4.2	1.4
1995	544	55.8	16.5	10.8	12.0	3.5	1.3
2000	559	51.8	17.9	13.1	12.4	3.6	1.1
2001	538	50.4	18.7	13.4	12.8	3.6	1.1
2002	544	50.8	19.2	13.7	11.7	3.5	1.1
2003	545	51.1	19.9	14.5	9.5	4.0	1.1

[出所]経済産業省/EDMC「総合エネルギー統計」、EDMC推計

[出典]日本エネルギー経済研究所計量分析部(編):EDMC/エネルギー・経済統計要覧2005年版、省エネルギーセンター(2005年2月4日)、p.20

\*【図1】から読み取れることは何か？

日本において供給される一次エネルギーは、1970年頃まで

(.....),

それ以後は、

(.....)。

▼【図表2】日本の産業構造の変化(経済活動別国内総生産の対GDP比率)

		(%)						
		1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985
第1次産業	農林水産業	19.2	12.3	9.1	5.6	4.9	3.3	2.9
	鉱業	1.9	1.4	0.9	0.8	0.5	0.5	0.3
第2次産業	製造業	27.5	32.3	31.1	32.7	27.0	26.3	26.8
	(素材型)	(28.9)	(32.7)	(31.7)	(31.3)	(29.6)	(30.7)	(26.0)
	(加工型)	(32.6)	(42.6)	(47.8)	(52.7)	(54.4)	(54.4)	(59.5)
	建設業	4.4	5.2	6.1	7.0	8.6	8.4	7.2
第3次産業	電気・ガス・水道業	2.4	2.5	2.6	2.1	2.0	2.7	3.2
	卸売・小売業	10.3	10.9	11.7	13.1	13.2	13.8	12.1
	運輸・通信	7.0	6.9	6.9	6.3	5.7	5.5	6.0
	金融・保険業・不動産業	9.3	10.4	12.0	11.2	12.0	13.1	14.0
	サービス	14.1	10.6	11.0	12.2	14.5	15.3	18.0
	公務	3.8	3.1	3.5	3.1	4.3	4.2	4.1
	1次産業	19.2	12.3	9.1	5.6	4.9	3.3	2.9
2次産業	33.7	39.0	38.1	40.5	36.0	35.2	34.3	
3次産業	47.0	48.8	52.8	53.9	59.1	61.5	62.8	
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注) 1. 第1次産業は、農林水産業、第2次産業は、鉱業、製造業、建設業、第3次産業はそれ以外の産業とした。  
 2. 素材型製造業は、ハルブ・紙、化学、石油・石炭製品、窯業・土石製品、一次金属。  
 3. 加工型製造業は、金属製品、一般機械、電気機械、輸送機械、精密機械、その他の製造業。  
 4. 素材型、加工型の比率は製造業を100とした場合の数字である。  
 出所) 経済企画庁、「長期週及主要系列『国民経済計算報告』(平成2年基準(昭和30年~平成10年))」の「経済活動別国内総生産」(名目値)。

\*【図表2】から読み取れることは何か？

- ① 1955~70年までは、.....
- ② 1970年以降は、.....
- ③ 日本の産業構造は、.....

【今日の感想】

今日の授業への関心 … ( 関心がわいた ・ 普通 ・ 関心がわかなかった )  
 今日の授業の理解度 … ( 理解できた ・ 普通 ・ 理解できなかった )  
 その他 ( ..... )